

とうきょう すくわくプログラム



『とうきょう すくわくプログラム』は、保育園、幼稚園の垣根を越え、すべての乳幼児の「伸びる・育つ(すくすく)」と「好奇心・探究心(わくわく)」を育むためのプログラムです。このプログラムでは子どもたちが主体的にそして仲間と協働しながら探究活動に取り組み、乳幼児期に養うことが大切とされている『自己肯定感』や『思いやり』などの『非認知能力の育成』をサポートしていくことをねらいとしています。





みどりの保育園では『自然』をテーマに探究活動に取り組んでいます。多摩市連光寺の豊かで恵まれた自然環境での活動、季節の野菜、草花の栽培、生き物の飼育、石砂土水、木の実などの自然物とレンガ、木材などの工夫しながら使える素材を保育者に見守られながら思いおもいに使える園庭環境を活かし、子どもの『やってみたい』『どうなるんだろう』『知りたい』などの思いを叶えられる環境を整えることを大切に考え日々保育を展開しています。そして活動を通して子どもたちの『心の育ち』『主体性』『人と関わる力』の育ちをサポートしています。



☆探究活動①『自然』 ＊水の流れ＊



みどりぐみ(4歳児)、きいろぐみ(3歳児)では水遊びが始まり「ダムっていう大きい池にしたい」と一人の子がレンガや木材を持ってきて作り始めました。



そのうち仲間が増え数名でどうしたら水が貯められるのかを相談しながら材料を配置。途中で水が漏れ始めたところには砂を集めて固めたりと試行錯誤している姿も見られました。



あかぐみ(2歳児)では道具を使って川づくりを楽しんでいました。



2か所から水を流し、2本の川がどうやったら繋がるのかシャベルで掘りながら考える子どもたち。水を流すには深く掘る事に気づいた子どもたち。2本の川が見事に繋がって喜びを共有している姿が印象的でした。

☆まとめ&振り返り

水遊びの中でダムを作ってみたい！川を繋げて大きい川を作りたい！という子どもの発想や思いから始まった『探究活動』。道具や素材を準備しておくことや主体的に始まった活動を保証できる環境をまずは整える大切さ。そして遊びを通してどうしたらいいのか。どうしたらうまくできるのかを職員が先に伝えるのではなく子ども自身が気づき、発見するのを待つ見守り方の大切さを改めて感じました。



とうきょう
すくわく
プログラム

こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん